

第10回エクセレントNPO大賞 「組織力賞」講評

1. 審査の視点

「組織力賞」は、活動主体としてガバナンスが機能し、経営の持続性や自らの組織改善の刷新性をうまく共存させている組織に贈られる賞です。組織の使命や目的を含めた全体像が文書として明示され、その課題や方針が明確になっているか、事業の効果と成果がホームページ等で公開されているか、さらには情報開示、寄付募集をはじめとした資金調達の多様性や透明性などの点を中心に審査を行いました。また、運営の独立性や中立性を維持しているか、スタッフが組織の目的を理解した上で仕事に取り組み、スキルアップできるよう助言・相談や教育の場を設けているかなど、組織の使命を継続的に遂行できる基盤を十分に持っているのか、という面からも審査しました。

2. 審査結果

(1) ノミネート団体

① みらいの森

同会は、児童養護施設で暮らす子どもたちのために、アウトドアプログラムを通じて生涯の糧となる体験を創り出し、幸せで実りある成長をサポートするため、キャンプなどのアウトドア体験を年間でのべ200名の子どもたちに提供しています。

ボランティアの募集をはじめ、ホームページはとてわかりやすく作成されています。併せて、プログラムごとにアンケート調査を実施するなど活動の改善点や新たな活動のヒントを見つけていく工夫をされていることも評価しました。

② 「全日本ピアノ指導者協会」

同会は、半世紀以上にわたり、その活動を発展させてきた経緯として、同協会には1.8万人の会員がいらっしや、イベントや組織運営のための運営委員会を持ち、それらは会員のボランティアによって構成されていて、会員がそれぞれの役割を果たすようにマネジメントしてきており、市民性、課題解決力、組織力についてバランスよく発揮されていることを評価しました。

③ 「多言語センターFACIL」

1995年の阪神淡路大震災で、言葉が分からず情報を得られない外国人被災者の支援を契機に活動が始まり、その後、外国人住民への日常的なサポートの必要性を認識し、1999年に団体として設立されました。長きにわたり素晴らしい取組を継続されていることに敬意を表します。コロナ禍により活動の創意工夫・転換が求められる中で、活動を継続することだけでも困難なことが多々あったことと思いますが、withコロナのニーズにも対応しつつ、また、本エクセレントNPO大賞を通じて自己評価にチャレンジするなど、常に新たな取組に励んでいる点も評価しました。

④ Teach For Japan

同会では、社会課題の解決や教育活動に情熱を持った人材に対し、研修を提供し、学校へ教師として送り出すフェローシップ・プログラムを2013年より実施しています。これらのプログラムの特徴は、教職課程を修了していない人でも、臨時免許や特別免許を活用して教師として働ける点にあり、近年では送り出す人材も増加傾向にあるようです。活動にあたっては、アウトカムレベルの目標が設定されており、今後の活動につながるものとして評価しました。

⑤ 新潟国際ボランティアセンター

同会では、ベトナムでの活動、地元の新潟での活動、両者をつなぐ活動に取り組んでいます。ホームページでは、さまざまなボランティア活動の役割を丁寧に説明されているほか、寄付者に活動の様子をわかりやすく報告しており、市民の参加意識を高めていることを評価しました。

(2) 組織力賞

以上、ノミネート団体の中から慎重に議論を重ねた結果、組織力賞は、昨年の第9回に引き続き「全日本ピアノ指導者協会」に決定しました。2年連続の受賞については、審査委員会でも議論となりました。同会は、団体としての歴史があり、さらには、たいへん多くの会員がいらっしゃいます。組織にとっては、強みにも弱みにもなる可能性があるなかで、1万8千名にのぼる会員という組織基盤を生かした方法を導入するなど、自らの組織改善の刷新性を推進させている点を高く評価し受賞としました。さらには、応募書作成を通じて活動の振り返りや自己評価を積み重ね、組織力を高めていらっしゃいます。こうした日ごろの取り組みのプロセスは、他団体にとっても関心を引き起こし、モチベーションを高めるものと考えて受賞を決定しました。

3. 今後に向けての期待

今回の審査でも点数の差はわずかであり、コロナ下など活動面での制約を受けながら、ボランティアの参加をはじめ時代の変化への対応力と人材育成への具体的な取り組みがポイントだったと思います。組織力強化は、一朝一夕には、成果は生みだせるものではありません。だからこそ、資金源の多様化や人材の育成などを通じて、具体的な取り組みを積み重ねていただくことを期待しています。